

還暦・古希そして
喜寿談議
文・写真 (株)地域サービス代表取締役
永井 英彰

**連続の告別式、お別れ会も
球根の輸入業務も難題続き**

本誌2月号で妻や友人の手術、愛犬の死など、筆者の78歳誕生日前後に暗い出来事が続いたことに触れたが、これらは不幸の前哨戦に過ぎなかった。

私たち15人がバチカンへ出掛ける直前の2月10日、胃がんの再発で弟・俊彰が徳島市民病院へ入院、3月15日早朝の干潮時に息を引き取った。弟は大阪で小学校の教員をしていたが、父親の介護のため1年早期退職をして徳島市の実家に帰り、介護用に新築した居宅に私と二人で住み込み、父親の最後も居宅で看取った。また、昨年末の(株)地域サ

ービス株主総会で、弟を後継社長に変更したばかりだった。バチカンから帰国後に再度臨時株主総会を開いて私を復帰させた。

弟の死後、店舗「オランダ館」でたまに店番していると訃報を知った来客が涙ぐんで悲しんでくれたり、数珠を届けてくれたりする。それなりに信頼関係を築いていたのだと見直した。融通の利かない一面はあったが、裏表のない真面目な性格は評価したい。その後は店舗や徳島市春日のビニールハウスの整理に追われている。ハウスのプラ鉢が大量にあり普通トラックに満載し

て運んでもらったら3万円だった。それでもほとんど片付いておらず、まだまだ時間が掛かりそうだ。

新聞社の先輩
徳島新聞社時代の先輩でよく麻雀をしていた猪兒雅弘さんが、弟と同じ日に83歳で亡くなった事を新聞で知った。彼は神山在住で、徳島市内から帰宅の途中、車ごと谷に転落したが一回転して岩の上に落ちたため、軽症で済んだという強運の持ち主だったが病には勝てなかったようだ。神山の歴史を調べては地元のリイオンズクラブ誌に発表、冊

子を送ってくれた。ご子息の仲人を頼まれて境港まで出かけたことや筆者の息子が小さかった頃、神山まで子犬を貰いに行ったことなども思い出した。告別式には似た年代の高田富士夫さんから5人が参列していたが、現役の記者は目に付かなかった。

エゴジャ出版元の主
3月16日、吉野川市鴨島町の日本中央テレビ設立者・まつもと歯科院長の松本芳明さんが63歳の若さで亡くなった。2年以上前、有線テレビの仮設現場を見に行き、自ら運転する車が谷に転落し病院に運ばれた。少し良くなつて見舞いに行き、快気祝いも頂いた記憶がある。再度入院と聞いて心配していた矢先の訃報だった。

松本さんは戦国三好一族に繋がるとかで、本誌掲載の出水康生先生企画の「三好長慶」ビデオ映像制作に出演、お公

家さん顔が良く似合っていたのを思い出す。エゴジャが4月号から雑誌を電子書籍に変更したばかりだし、他でも事業をされており、一日も早く体制が整うようお願いしている。

大麻神社でお祓い
不幸続きのため「これでは溜まらん」と大麻比古神社へお祓いに出掛けた。本殿の石段を上がりふと横を見ると自己祓申が目についた。作法も表示されている。両手で祓申を持ち、唱詞「祓へ給へ清め給へ 守り給へ 幸へ給へ」を奏上しながら、自分の肩の辺りを左・右・左の順で祓う。祓申を元に戻し、賽銭を納めて、二礼二泊一礼の作法で拝礼する、とある。筆者はお札を一枚賽銭箱に納めた。

筆者は毎日1万歩を歩き、これで健康を維持されていると思っている。そこで、神社からの帰りに東新町の靴店へ出掛けフランス・メヒイスト社製の靴を買った。現在使っているウオーキング・シューズと同じ会社なので、サイズが同じなら間違いないと思ったのに、いざ履いて見ると少し窮屈だ。「先の靴は程よく革が伸



意識があったころの弟・俊彰



2週間後に告別式



松本芳明さんのお別れ会



雨にけがる大麻比古神社



自己祓いの祓申

出掛けフランス・メヒイスト社製の靴を買った。現在使っているウオーキング・シューズと同じ会社なので、サイズが同じなら間違いないと思ったのに、いざ履いて見ると少し窮屈だ。「先の靴は程よく革が伸

びたのでびったりしている。新品は革がしっかりとおりきついでしよう」との返事だった。結局、シユーズキーパーで広げてみるようになった。

球根輸入の難問続き

昨秋で球根輸入は25年とたった。ニュージーランドからカラーを輸入したのが最初で、種々の球根を扱ったが、最近ではチューリップばかりだった。数年前に亡くなるまでは芦屋在住の中里向一さんという貿易の先生がいて、業務用の書類も全てチェックしてくれていた。独り立ちの輸入となったが、最近ではメールの遣り取りが中心なので、辞書を片手に何とか熟してきた。

昨秋、オランダから球根積込時に問題が起きた。何時もは商船三井(MOL)に積んでもらっていたのに、コンテナが満載で乗らないと連絡が入った。それではと日本郵船を指示したところ、「MOLのコンテナに積む」との返事が来た。数社から球根を集めて1000000球にしているため、別々のコンテナに積まれたらコンテナの費用が二重に重なることとなり赤字となる。

土曜日、旧知の商船三井担当者にお問い合わせところ「最近では2社がお互いの船に枠を持ち合っているという。つまり、

ユーザーの要望に応えるため、郵船もMOLの船に積むことができ、MOLが郵船の船に積むこともできるという。支払いが郵船にするが、船はMOLに積む事が判った。

花に斑点が出る

何とか神戸で荷揚げして予定通り生産者へ配送できた。2月、チューリップの出荷時期になって、生産者から「花の何割かに斑点が出て売物にならない」と連絡が入った。早速農園へ行き写真を撮り、それをメールでオランダへ送る。最初、オランダからは「日本へは同一品種をあちこちに出荷しているが、斑点の苦情は何処からもない」との返事だった。本当にそうなら徳島の栽培が悪いという事になる。しばらくして今度は「日本で



斑点の出たチューリップ

他からも苦情が入った。その品種の球根代の半額を補償する」との連絡がメール

で入った。球根代の半額補償を受けても、コンテナや陸送の費用も掛かっているの、問題が発生したら得することは無い。

外国送金の受取方

これまでニュージーランドやイギリス、オランダなどへ数十回の送金をしてきた。しかし送金されたことは記憶にない。補償金を送りますと言われても受け取り方法が判らない。そこで徳銀勝瑞支店の吉田さんに尋ねたら、徳銀のホームページを開いて下さいと言われた。開くとそこにある法人欄をクリックするという。そこには「外国からの送金を受け取るには？」という項目があり、そこを開くと「銀行名、支店名、スイフトコード、口座名、講座番号を先方に知らせれば良い」とある。スイフトコードとは銀行を特定する番号のようだ。指示通りに打ち込んで球根会社へメールしたら、後日振込があった。貿易業務を打ち止めしたいと



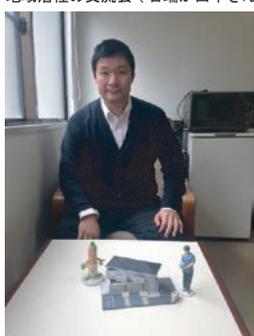
地域活性の交流会(右端が田中さん)

目論んだのだが、期待通りにすつきりとは終わらせてくれない。関係農家の皆さん、長い間お付き合いを頂きましてありがとうございます。心からお礼を申し上げます。

忌部が結ぶ地域活性

4月7日、鳴門の農業研究会・野田靖之先生から埼玉の地域活性化グループが来るので、地元代表としてバチカン行の話をに入れて挨拶して」と依頼があり徳島市川内町のレストラン「ひーこ」へ出掛けた。なんと30人もの人たちが集まっていた。

埼玉県行田市からバリトン歌手でイタリア料理研究家の田中利幸さん(57)ら一行が見えた。田中さんは行田の古墳に因んで「さきたま古墳群・古代米カレー」を考案、埼玉に次々にカレー店を増やしている。徳島の古代米販売会社「みむら」と提携、佐那河内村の数件からも仕入れているため、村からも数人が出席していた。徳島でも古代米カレー店を開



3Dプリンターで作った住宅模型と上野講師
※(有)赤沢製作所提供作品

かないかと呼びかけていた。田中さんによれば古代米はカレーに良く合うらしい。林博章先生が「忌部氏は行田にも進出しており徳島と深い関係がある」と講演。続いて花粉酵母菌や剣山の絶滅植物品種、太陽光発電の進化、抗酸化イチゴの研究など次々に発表があった。

上野さん四大講師に

本誌掲載の上野昇さん(47)が、4月から四国大学生生活科学部講師に就任した。デザインが専門で3Dプリンターを使った授業なども行なう。来春の開館に備え芸術塔のベースも作成している。



芸術塔のパス・デザインと音楽が入居